

# 夜回り通信

v o l 4 平成17年5月27日

## 献品の報告

1. 衣類10数点（高校職員）
2. 衣類役10点（高校職員）
3. 海苔類（高校職員）

## 夜回り（5月11日）・炊き出し（5月14日）の報告

今月は私の仕事のために参加できませんでしたので、報告できません。すみません。献品は炊き出しに間に合うように14日の朝に届け、受取証の発送を頼みましたので、ご了解ください。従って、今回は別の話題の報告をします。

## Sさんのこと

もう9年前のことになる。Sさんとは夜回りで出会った。当時62歳ぐらい。ホームレス歴2年ちょっと。パチンコ店に20年以上勤めていたが、宝くじに凝り出してから次々にそれへお金をつぎ込むようになって、ついにはアパートの家賃が何ヶ月も滞ってしまい、路上に出ることとなった。

出会う時彼はいつも緑色の帽子を被って、仙台駅の屋上にいたり、一階のゴミ箱で新聞や雑誌をあさっていることが多かった。彼からの最初の相談は、ちょっと目を離している隙に保健証の入ったバッグを盗まれたとのこと。その次の相談は、年金が出るかもしれないから調べてみたいということだった。

そこで、私が昼間の都合のつく日に日時を待ち合わせて一緒に元寺小路教会そばの年金センターへ同伴した。係員に正直に事情を話して頼み調べてもらった結果に、二人で啞然となった。Sさんは2か月に22万円の年金を2年以上ものホームレスの間に貯蓄していたことになりそれが300数十万円にもなっていた。

そこまでは良かったが、係員に「本人の通帳を用意しないと振り込めません」と言われた。通帳を作るには住所が必要になる。Sさんと私は相談して、いちかばちか2年以上前に住んでいた住所のあった区役所へ足を運んだ。そこで、すでに住所のなくなっているはずの本人の住民票を発行してもらった。お役所仕事にあれほど感謝したことはかつてなかった。

おかげでその後、年金の振り込みを得て、相談の上300万円は定額にして修道院（EPさん）に預け、残りの資金でアパート生活を始めた。その間にEPさんの教え子である卒業生の家族が経営しているケアハウス（吉成）にSさん入居のお願いに上がった。そして、アパート暮らしから2年後に入居した。

（ウラ続く）

そこは身の回りのことができる人が入るアパート形式でプライバシーが守られ、三度の食事と共同風呂と、ナースコールが完備している。不調が続いた時は別棟の24時間態勢の特養施設にしばらく移されたりする。要するに非常に快適な暮らしで、Sさんは年々元気になっている。ケアハウスの生活が落ち着いたところで預かっていた定額通帳も本人に返した。

Sさんは丸森の実家の墓に入りたいと以前から言っている。

次回の炊き出しは6月11日です。衣類や食糧等で献品できる物がありましたらお願いいたします。